

第6回全国高等学校情報教育研究会 全国大会(京都大会)の報告

千葉県立柏の葉高等学校教諭
滑川 敬章

1. はじめに

京都大学の百周年時計台記念館と学術情報メディアセンターを会場に、今年度の全国高等学校情報教育研究会¹⁾の全国大会が開催された。第6回となる今大会には、約320名の教員、大学・企業関係者、学生等の参加があった。

例年通りの基調講演、ポスターセッション、分科会等の他、初めての取組として、翌日の分科会発表の内容について3分間でプレゼンする「ライトニングトーク」も行われた。この全国大会の様子について簡単に紹介させていただく。

2. 大会概要

【テーマ】「教科情報11年目の進展～情報教育の深化～」

【日時】

平成25年8月9日(金)12:00～10日(土)13:10

【会場】 京都大学百周年時計台記念館 他

【主催】 全国高等学校情報教育研究会

【共催】 京都市立高等学校情報教育研究会

【大会サイト】 <http://www.zenkojoken.jp/06kyoto/>

【プログラム】

○8月9日(金)

11:30～ 全国高等学校情報教育研究会総会

12:00～ 開会行事

12:30～ 基調講演「文と理をむすぶ情報教育
——基礎情報学からのアプローチ」

東京大学名誉教授/東京経済大学教授 西垣通氏

14:15～ ライトニングトーク



図1 開会行事

15:30～ ポスターセッション

18:30～ 教育懇談会

○8月10日(土)

09:00～ 受付

09:30～ 分科会

12:30～ 全体会・講評講演

文部科学省初等中等教育局視学官 永井克昇氏

13:00～ 閉会行事

3. 大会の様子

(1) 基調講演

西垣先生から「基礎情報学」についてご講演いただいた。生活のすべてにデジタル情報通信技術が浸透しつつある情報社会を踏まえて、文系の情報学と理系の情報学とをむすぶ新しい理論的試みである「基礎情報学」のエッセンスについて述べられた。

また、基礎情報学の具体的応用例として、現在注目されているネット集合知についても触れられた。

我々が教えていかなければならないことは、最新知識ではなく基本知識であり、情報の本質をつかみ、本当に必要なITの在り方を考えていくことを情報教育の根幹に据えるべきであると締めくくられた。

なお、講演の様子については、京都大学オープンコースウェア²⁾に掲載されているので、ぜひご覧いただきたい。



図2 基調講演

(2) ライトニングトーク

今大会では、新しい試みとして「Lightning Talk」

というセッションが基調講演の直後に行われた。IT系のセミナーやカンファレンスなどで広く行われている発表形態のひとつで、数分程度の短時間で発表を続けていく形式のプレゼンテーションである。

第1話者として実行委員会から「Lightning Talkとは」という題で発表をはじめ、その後は分科会発表者(希望者)が1人当たり3分間で2日目の発表内容の告知・PRを行った。3分が過ぎるとドラの音が鳴り、話の途中でも話者は交代となる。3分間の使い方はそれぞれで、スライドを使った普通のプレゼンの他、マイクだけのパフォーマンス風の発表など、ライトニングトークのための工夫も見られた。

今大会では分科会が2会場に分かれていることもあり、参加者にとって翌日の行動を決めるためにも、ライトニングトークという発表形態の面白さを伝えるためにもよいセッションになった。

(3) ポスターセッション

25件の発表が前半・後半のそれぞれ1時間ずつに分けて行われた。会場となった時計台記念館2階の国際交流ホールは、これまでの大会で一番広く、とても発表が聞きやすかった。また、企業展示も同じ会場で行われた。

授業実践に関する発表をはじめとして、開発した教材や授業で使えるツールについての発表などがあつた。情報の科学に関する発表も案外多かつた。パネル一面を有効に使い、内容を隠した紙をはがしながらプレゼンテーションする発表者や、情報科の今後について参加者にシールを貼ってもらい、意見を集める発表などもあつた。



図3 ポスターセッション・企業展示

(4) 分科会

2日目の分科会は、「システムの活用」、「情報の科学」、「情報モラル」、「情報活用の実践力」、「教育課程・評価」の5分科会に分かれて行われた。第1, 2分科会と第3, 4, 5分科会の会場が離れていたため正確なところはわからないが、最も参加者が多かつたのは「情報モラル」に関連する発表の分科会で、少ない会場の3倍近い参加者で会場が埋まっていた。内容の濃い発表に、質疑の時間が足りないくらいで、情報モラルに関する関心の高さがうかがえた。



図4 分科会

(5) 全体会・講評講演

最後の全体会では、永井視学官から2日間を振り返ってのご講評と、「これからの情報教育」というタイトルでご講演をいただいた。

「分かる⇔できる」「共通性⇔多様性」「個業⇔協業」などのキーワードを挙げられ、我々が授業を実践していく上で共有していきたい考え方を示された。

また、第2シーズンを迎えた教科「情報」にとって、授業実践を通した「意義あるエビデンス」の形成・蓄積が重要であり、次の学習指導要領のためにも、教科「情報」創設時の期待に応える実践を積み重ねていくことが大切であるとまとめられた。

4. おわりに

来年度の全国大会は、平成26年8月上旬に埼玉県の東洋大学川越キャンパス行われる予定である。さらに多くの先生方の発表・参加を期待したい。

参考 URL

- 1) 「全国高等学校情報教育研究会」
<http://www.zenkojoken.jp/>
- 2) 「京都大学オープンコースウェア(公開講義 67)」
<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/67>